



安全データシート (SDS)

作成日 2015年10月1日
改訂日 2024年7月26日

1. 化学品及び会社情報	
製品名	第1リン酸カルシウム (MCP)
会社名	片倉コープアグリ株式会社
住所	〒102-0073 東京都千代田区九段北1-8-10
電話番号	03-5126-6614
ファックス番号	03-5216-6643
緊急連絡電話番号	03-5126-6614
推奨用途及び使用上の制限	飼料添加物
2. 危険有害性の要約	
GHS分類	
物理化学的危険性	
爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	区分に該当しない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	区分に該当しない
鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	区分 1A
生殖毒性	分類できない
生殖毒性・授乳影響	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない
その他	
環境に対する有害性	
水生環境有害性	分類できない
オゾン層への有害性	区分に該当しない
その他	

GHSラベル要素

絵表示（ピクトグラム）



注意喚起語

危険

危険有害性情報

遺伝性疾患のおそれの疑い（結晶質シリカ）

発がんのおそれの疑い（結晶質シリカ）

注意書き

安全対策

取り扱い後はよく手を洗うこと。

保護眼鏡/保護手袋/保護衣/防塵マスク等を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合、多量の水を飲ませた後吐かせる。必要に応じて、医師の診断を受ける。

皮膚又は毛に付着した場合、水で洗い流す。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

鼻をかみ、うがい等を行い粉塵を排出させる。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。目をこすってはいけない。

保管

換気のいい場所で保管すること。

廃棄

他の危険有害性

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

組成物質名	CAS登録番号	構造式	化審法番号	安衛法番号	含有量
リン酸二水素カルシウム	10031-30-8	$\text{Ca}(\text{H}_2\text{PO}_4)_2 \cdot \text{H}_2\text{O}$	1-183	-	99%以上
結晶質シリカ	14808-60-7	SiO_2	1-548	別表9の165の2	1%以下

4. 応急措置

吸入した場合

被害者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

多量の水で最低 15 分間洗浄ののち、痛みがある場合は直ちに眼科医の手当を受ける。

飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄する。直ちに医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

この製品自体は発火しない。

使ってはならない消火剤

データなし

火災時の特有の危険有害性

加熱により容器が爆発する恐れがある。

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、周辺火災に応じて適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、防塵マスクを着用すること。

環境に対する注意事項

公共用水域に流出しないように留意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

防水シート等で覆いをして、飛散拡大の防止を図る。固体は掃き集めて回収する。

二次災害の防止策

データなし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

適切な保護具を着用し作業する。

安全取扱い注意事項

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

取扱い後は、使用した保護具、手、顔をよく洗う。

接触回避

データなし

衛生対策

取扱い後は、使用した保護具、手、顔をよく洗う。

保管

安全な保管条件

開封したまま放置すると、吸湿して固結する恐れがあることから、使用後は密封して保管する。

直射日光を避け、高温条件での保管を避ける。

安全な容器包装材料

包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定なし
許容濃度	
日本産衛学会(2023年版)	吸入性粉塵 0.03 mg/m ³ (結晶質シリカ)
A C G I H(2023年版)	TLV-TWA 0.025 mg/m ³ (呼吸性画分) (結晶質シリカ)
設備対策	粉塵の激しい作業場では、局所排気を行う。
保護具	
呼吸用保護具	防塵マスク
手の保護具	保護手袋
眼、顔面の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	長袖の作業衣、安全靴
特別な注意事項	データなし
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状態	固体
色	灰白色
臭い	無臭
融点・凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	不燃性
引火点	不燃性
自然発火点	不燃性
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他データ	データなし
10. 安定性及び反応性	
反応性	データなし
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	データなし
経皮	データなし
吸入：気体	データなし
吸入：蒸気	データなし
皮膚腐食性／刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	データなし
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	(結晶質シリカとして区分 2) In vivoでは、気管内注入によるラット肺胞上皮細胞を用いたhprt遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織のhprt遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化DNA傷害試験で陽性又は陰性、ラット肺上皮細胞のDNA切断試験で陽性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。

(結晶質シリカとして区分 1A)	
発がん性	結晶質シリカの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))
生殖毒性・授乳影響	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし
その他	データなし
1 2. 環境影響情報	
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他	データなし
1 3. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
1 4. 輸送上の注意	
国際規制	
国連番号	該当しない
品名 (国連輸送名)	該当しない
国連分類 (輸送における危険有害性クラス)	該当しない
容器等級	該当しない
国内規制	
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	消防法、道路法の規定に従う。
特別な安全上の対策	丁寧に取り扱い、包装袋の破れ、水漏れに注意し輸送する。雨天時は防水シート等で覆いをする。
1 5. 適用法令	
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9) (結晶質シリカ) 名称等を通知すべき危険有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) (結晶質シリカ) リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第57条の3) (結晶質シリカ)
1 6. その他の情報	
危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには十分注意をしてください。 全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。また、注意事項は、通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点をご配慮ください。 本SDSはJIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。	